

北海之光

8月号 北海道教区報

主はわたしたちに道を示される
わたしたちはその道を歩もう

イザヤ書2章3節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nshk-hokkaido.jp

http://www.nshk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴

「病い」の存在論

旭川聖マルコ教会牧師・深川聖三一教会管理牧師
稚内聖公会伝道所管理牧師・留萌キリスト教会協働司祭

司祭 コルベ 下澤 昌

表題は一九八四年に出版された本のタイトルで、当時の四国学院大学大学院に在籍中の得永幸子という方の修士論文が書籍化されたものです。自身が事故で重い障がいをもち、病いという「生の阻害」からいかに回復を求めるか、また病いとは、回復とは何かというテーマを扱う、迫力ある本でした。

一口に病いといっても様々です。一過性のものもあれば、かなり手強いものもある。特に罹患すると元に戻ることが難しい、不可逆的な病いは辛い。そのような病いは体へのダメージだけでなく、考え方、世界観、他者との関係性に根本から影響を及ぼし、生の質を大きく変えることがあります。著者の表現によれば、「病いによって」私は世界と切斷

され、私自身の中に閉じ込められる「ことにもなるのです。よく教会の中で、病いを得てもそれが「恵み」と言われるのは、闘病の中で本人が世界との関係を取り戻した時に起こります。しかし、誰もが恵みと感じられるかといえ

ば、そうではありません。生身の人間ですから、少しの病状の変化で、「恵み」どころか、苦痛が永遠に続くような感覚に襲われても不思議ではないのです。まさに、病いとは残酷で、「生の阻害」以外の何ものでもありません。

私などはテレビや本で、重い病いを得ながらも明るく積極的に生きている人を見ると、つい自分が恥ずかしくなっています。大病ではなくても、ありとあらゆるマイナス

思考が頭の中を駆け巡りま

かどうか、私にはよく分かりません。しかし、確かなことは、聖餐式はイエス様のソーマと私たちのソーマが触れ合い、繋がることです。私の病いという罫いを解き、世界との繋がりを取り戻してくれる神の手です。真の回復を求めている病む人々にとって、聖餐式とは、イエスに肩を抱かれ、その体温を感じることで

は不思議なもので、慰めの言葉を一〇〇回聞くよりも、たった一度、誰かに無言で肩に手を置かれる方がよほど救われることがあります。私たちの「からだ」はそのようにできています。新約聖書で「からだ」には二つの表現があり、一つはサルクス、もう一つはソーマといえます。サルクスとは、物理的な肉体としての体のこと。それに対してソーマとは、私たちの魂の部分を含めた全人格的な意味での「からだ」です。私たちに必要なのはソーマとしてのからだの癒しであり安定です。最近思うことは、キリスト教が二〇〇〇年間続いてきた背景には、教会がソーマの回復を大切にしてきたからではないかということ。聖餐式そのものに癒しの効果がある

できる唯一の機会です。生の阻害から回復するためには、神、そして世界との繋がりを感じることが最も大切なのです。それがあれば、病いが治っても、たとえ治らなかつたとしても、私たちはすでに神の国に生かされていることを知ることができ

ます。イザヤ書五三章で、来るべき救い主は「苦難の僕」と呼ばれます。その人は「痛みの人で、病を知っていた」。そう、イエスは私たちの痛みを担っている。だからどんな病いになつたとしても、私たちは決して独りぼっちではありません。



福音と私(二七二)

—心の窓をひらく—
—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

平取聖公会信徒

井澤 敏郎

「私の好きな聖句」

私を見たから信じたのか。見ないで信じる人は、幸いである。

ヨハネによる福音書二〇章二九節
(聖書協会共同訳)

○幼少期

私は熱心な浄土真宗門徒の祖父に小学校に上がるまで守りされた。日に三度仏壇にお参りし、どんなに農繁期であっても月三度のお寺参りを欠かさない人でした。

○社会人、福永小説と出会う

高校卒業後、東京都田無市のジェットエンジンの工場に勤めた。妻も同じ職場で出会った。二三歳の時、本屋で手に取った本が福永武彦の『ゴーギャン』という小説だった。その後すべての作品を読んだ。作者の母が聖公会の伝道師であったことは後に知っ

た。

○社会人から大学生に

二七歳の時、酪農大に入學し、その入学式で讚美歌「いつくしみふかき」を歌った。学校礼拝に毎週出席し、クリスチャンの教員に多く出会った。大学在学中に名寄市の「道北クリスチャンセンター」で開催されていた「道北三愛塾」で酪農大初代学長の樋浦誠先生に出会った。何かしらとてつもない人であった。北海道大学の学生時代に洗礼を受け、戦時中の岐阜大学の教員時代は憲兵が見守る中で礼拝を守った信徒とのことでした。

○旭川大学時代

大学を卒業して三一歳で旭川大学の地域研究所の事務職に再就職した年に、野幌教会で妻美恵子と結婚した。「ア

イヌ文化」との出会いも始まった。夏冬一週間の道北三愛塾の毎朝の「聖書と人生」の時間がその頃の抛り所であった。

子どもが三人授かった七年目から夜間部の教務課に異動になり、熱心に学ぶ社会人の窓口係になった。その時に強烈な思い出がある。入学してすぐに登校しなくなった男子学生が、暑中旭川市内でリヤカーを引いている姿を級友が見たと云う。これは靈感商法かと疑い、親に求めてもらい宿の大家さんと連絡を取ってなんとか本人を見つけて実家に引き取ってもらった。組織と離れるのに色々と困難があったが、本人の努力が実って四年で卒業できた。

○家族全員で洗礼を受ける

一九八八年、四〇歳で道北クリスチャンセンターの館長で宣教師のウイットマー師から妻美恵子と一緒に洗礼を受けて、日本キリスト教団名寄教会の信徒となった。子ども四人も幼児洗礼を受けた。

○平取の酪農場に転職

四二歳で一一年勤めた旭川

大学を退職して、平取の友人の酪農場に転職した。やってみると朝早くから夜遅くまで、子どもたちと一緒に食事できる時間もなかったが、日曜日朝の作業を終えて礼拝の時間はもらえていたので、教団の苦小牧の教会に七五キロを通ったが、子どもの日曜学校には間に合わない。町内にある平取聖公会を訪ね礼拝出席するようになった。江口牧師夫妻と信徒の方々が迎えてくださり、バチラー保育園児も交えて日曜学校も始めてくださった。

平取に来てからもう一人子どもが授かった。五人の子どもが礼拝中に走り回ったりしても優しく見守ってくださったことに感謝しています。江口牧師、天城主教、小貫ツマ牧師、植松主教、桑山執事、上平仁志牧師にお世話になり、五人の子どもが中学を卒業する時まで皆洗礼、按手を受けたことは大きな感謝でした。

○神愛園へ転職

二〇〇二年、札幌の老人ホーム神愛園の法人事務局長

にこの話が後に理事長となる方から打診があり、クリスチャンが協力して作った老人ホームと聞き、ひよつとしてお話が来るのは神様がそうしなさいと言っているのではないかと考え、一度お会いしてみようと返事をしました。

福祉にも老人ホームにも知識のない私でしたが、面接の終わりに四月から来てくださいとなりました。二月半のことでしたが場長に相談して退職を認めて頂き、単身赴任して六年勤めました。六〇歳の定年で退職し平取に戻りましたが、とても充実した経験をする事ができました。

○内海牧師の赴任

二〇一〇年に神愛園の同僚であった内海牧師夫妻が教会に赴任されました。その後二〇一五年に町議会議員に当選し、現在三期目を務めています。内海牧師の説教を毎週聞けるのを楽しみに妻と二人暮らしをしています。

常置委員会報告

第九回 七月一日

《協議事項》

一、主教の海外出張について
 ・九月二三日に韓国の天安にて行われる大韓聖公会大田教区主教接手式への出席のため

の出張を承認した。

二、二〇二四年度の教区費・

教役者給与と会計予算(案)に

ついて

・会計担当者会議に向け、上

記予算(案)について協議した。

三、「遺贈のしおり」発刊につ

いて

・年内中の発行に向けて準備

を進めることとした。

四、教役者給与と規程改定につ

いて

・教区会での上程に向け、作

業チームによって原案を作成

することとした。



主教室から

新型コロナウイルスが五類へと移行し、ウイルスは変化していないとしても、わたしたちの生活は大きく変わりました。各地で人の出が多くなり、イベントも戻ってきています。一見以前を取り戻してきている様子は、その事自体は大変嬉しいことです。直接親しい方々と会う機会も増え、また食事やおしゃべりも気をつけながら楽しむこともできます。

北海道教区でも、衛生管理や健康管理は継続し、接触感染の対応はすでに不要であるものの、感染症対策に手洗い、うがい、換気が今後も有効であることを確認しつつ、通常の礼拝や教

会活動に移行してい

くこと、インフルエ

ンザも含め流行期に

は対策を再度強化す

ることなどの対応となりま

した。礼拝では聖歌もチャ

ントも以前のように歌われ

ていることでしょうか。教会

活動も次第に以前の営みを

回復しようとしています。

そして今、そのひとつの変

化から三ヶ月を迎えています。

わたしは今一番案じてい

るのは、各教会・伝道所の

皆さまがくたびれていない

かということなんです。わた

たちは三年間もの間、制限

のある生活を余儀なくされ

ていました。行動範囲も活

動量も激減していたと思

います。そして皆三歳年齢を

重ねています。そのために

礼拝で歌うこと一つ取って

なかつたり声量がなかつた

りします。教会活動のため

に思っても体が思うよう

に動かなかつたり、疲れや

すかつたりします。突然、

全く以前のようにすべてを

取り戻すことは難しいので

す。

嬉しいことだからこそ、

どうぞ今は皆一緒にリハビ

リの時期だと捉え、少しず

つ新しいことに一緒にチ

ヤレンジするつもりで今は

お過ごしください。この地

上に生きている以上、心と

身体に限界のあるわたした

ちが、今優先するべきこと

を主に祈って識別し、むし

ろ確かな一歩一歩を歩んで

まいりましょう。来年、必

ず宣教開始一五〇年の年は

訪れます。

轟 マリア・グレス 笹森 田鶴

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

九月二三日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教室聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 木末 登

一九六七年九月四日

司祭 本間 弥 門

一九三九年九月八日

司祭 岡村 龍 夫

一九八〇年九月一〇日

司祭 須貝 隆

一九九九年九月二三日

伝道師 門崎 まさ彦

一九七九年九月一五日

伝道師 A・M・ヒュース

一九五八年九月一七日

伝道師 E・E・ヒュース

一九三〇年九月一八日

司祭 柴田 新太郎

一九三四年九月二〇日

歴史の窓二〇二三(1)

「一八七四年」

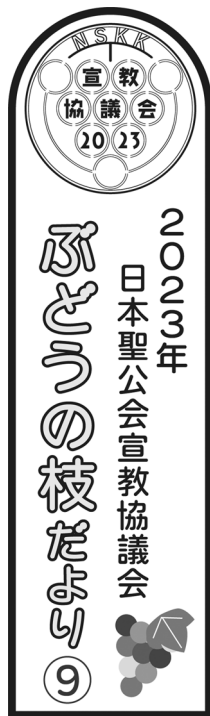
二月ウィリアムズ主教「立教私塾」開設、五月CMS宣教師ファイソン司祭が新潟伝道開始、五月一六日CMS宣教師デニング司祭、函館に入り伝道開始。

教区歴史文書保管委員会は、教区事務所や教区内教会、諸施設から預けられる資料の整理保管作業を定期的に行っています。私達は日々の活動記録の整理が一五〇周年を祝うことに繋がると考えています。これまで教区内で多くの周年記念誌が作られてきました。そこに記されているのは編集に携わった方々をとおして見た組織の歩みです。その根拠は日々の活動や信仰の証の記録です。同じ記録も時代や編集者が変われば違って見えます。その「同じ記録」をいつまでも新鮮に使えるように保存するのが私たちの役目です。

「作業報告」「北海の光」創刊号〜四七三号までの製本中

歴史文章保管委員長

下田 尊久



宣教協議会プログラム

一昨年、全国の教会、関連施設・団体、教区、管区諸委員会にアンケートを配布し、二〇二二年以降にそれぞれの場で取り組んでこられた働きについてお聞きしました。

「み言葉に聴き、伝えること」「世界、社会の必要に応え仕えること」「生活の中で福音を具体的に証しすること」「祈り、礼拝すること」「主にある交わり、共同体となること」「教会の五要素」から、それらを見える形で宣教協議会に持ち寄ってみようという意図から、各教区・教会等による「実り持ち寄りブース」が計画され、一月に清里に集まる参加者の皆さんを通じて準備をお願いしています。ローカルに立つ教会の、今あるものを集合させることによつて見えてくるものは何でしょうか。今回の宣教協議会

はそこから出発となります。

信徒数の少ない教会の話を聴くプログラム「私たちのあゆみ」物語を聴く」も予定されています。沖縄県の屋我地聖ルカ教会、長崎県の厳原聖ヨハネ教会、秋田県の大館聖パウロ教会がご協力くださることになりました。

昨年開催された「ぶどうの枝協議会」では、宣教協議会で、地域や社会で出会う人と共に歩み、生きる働きに焦点を当てるのが提案されました。プログラムとしてどのように考えられるか検討を重ねた結果、「命の現場から聴く」パネルディスカッションと分科会が計画されています。パネリストの紹介は宣教協議会ブログの「管区事務所だより四月号」から見ることができ

ます。
三月～五月には、祈祷書改正委員会、女性デスク・ジェ



ンダープロジェクト、主教会と「ぶどうの枝分科会」を開きました。日本聖公

会の取り組みや課題に目を向け、変革への展望と未来を見据えるためのプログラムは宣教協議会のもう一つの柱となります。これらは現在、実行委員会が詰められています。

私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れないからである。

(ヨハネによる福音書一五：五 宣教協議会主題聖句)

いつも私たちの真ん中に「ぶどうの木」であるイエス様を見つめながら、一月にわたる準備の過程が、皆さまと共に歩む宣教協議会、清里への道のりとなるようにと願っています。

宣教一五〇年実行委員会だより VI

司祭 サムエル 吉野 暁生

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。今回は現在の進捗状況をいくつかお知らせいたします。

まず、みなさんに投票していただいたロゴマークですが、基本の形は完成しました。今回の記事から使用させていただきます。あとはカラー版と、変型版がいくつか作られる予定です。順次お披露目していきます。今後は記念品や、販売する記念グッズについての作業を行っていきます。また、ロゴの完成に伴って今月中には皆さんのところに「一五〇年献金」の袋をお届けできると思います。

「アイヌ宣教」に関連した公開講座やシンポジウムの進捗も順調です。内容も固まりつつあり、講師等も了解をほぼ得ています。わたしたちにとつても「アイヌ宣教」を振り返ることはとても重要です。みなさんもぜひ参加をお願いいたします。

「福音とわたし」の書籍化も順調に進んでいます。原稿はほぼ完成し、校正の作業に入るところです。早ければ今年中に一冊目を皆さんのところへお届けできる予定です。A5版全五分冊、各一二〇頁くらいで刊行します。

記念聖歌の歌詞公募に、たくさんの方のアイデアをお寄せくださり感謝いたします。これら歌詞をもとに、全体の歌詞の作業に入っています。歌詞が完成次第、作曲に入り、皆さんのところには年明けすぐくらいには新しい聖歌をお届けできると思います。みなさんにたくさん歌っていただいてから記念礼拝に臨みたいと考えています。新しい聖歌、楽しみですね。

記念礼拝も徐々に概要が固まってきました。来月には説教者の正式決定をお知らせできる予定です。

二〇二四年まであと少し。過去を振り返りながらこれからの未来に向けて頑張っていきます。また来月お会いしましょう。



歩き続けよ、福音の道
NSKK・HOKKAIDO since 1874
A5版全五分冊、各一二〇頁くらいで刊行します。

バチラー保育園新園舎落成の報告

チャプレン 司祭 パウロ 内海 信 武

去る七月一七日(月)バチラー保育園の新園舎の落成・祝別式が執り行われました。この日は祝日「海の日」で、司式の笹森主教さまには前日のご巡回に引き続き平取にお泊りいただいでのごことでありました。午前一時より落成式が始まり「詩篇五一編」が交唱される中、高橋久美子園長の案内により年少の「つばみ組」さんから順に各部屋を祝別していただき、聖歌「そらのとりは」を歌って式を終りました。

次に記念式に移り、柳原美樹主任の司会により進行されました。最初に設計・施工の各社の代表の方々に笹森理事長より感謝状が贈呈され、続いてご来賓の挨拶をいただきました。挨拶に立たれた遠藤桂一・平取町長はご自身のお子さん三人がバチラー保育園に通っていたことを交えて、いかに当園が平取町に寄与しているかをお話しくださいます。



謝の言葉を述べられました。一九二三年(大正十二年)から五年間ではありましたが、バチラー宣教師の強い思い入れにより当園の前身ともいえる幼児施設が開設されたこと、それにより現在のバチラー保育園が存在することをお話されました。また、いろいろ紆余曲折はあったものの、平取町のご厚意により現在地に新園舎を建設することとなり、今年度四月より「認定こども園」として新たに一クラスを増やして六クラスで保育がスタートしたことを報告され、散会となりました。

聖保連全国大会報告

司祭 サムエル 吉野 暁 生



石丸昌彦先生

二〇二三年七月二六日(水)二八日(金)に函館大沼プリンスホテルを中心に、第六四回日本聖公会保育連盟全国保育者大会が四年ぶりに開催されました。テーマは「漕ぎいでよ!」と癒しと再生

しばらく中止となっていました。が、ようやく今年久しぶりの開催となりました。参加者はスタッフ・関係者を含む一六八名。ほぼすべての教区からの参加があったことを感謝いたします。

「と」し、クリスチャンであり、精神科医の石丸昌彦先生に基調講演をお願いし、大沼近郊の雄大な自然の中でさまざまなプログラムが行われました。

初日は「育つ力と霊的成長」をテーマにした石丸先生の講演で始まりました。子どもたちの成長には「霊的な成長」が欠かせないというお話を、聖書のお話のほか、「心をこめる」とか「まごころ」というキーワードを使いながら、決してキリスト者が多いわけではない幼稚園・保育園の職員たちにわかりやすくお話しくださいました。

幼稚園・保育園のない教会の方は耳なじみがないかもしれませんが、日本聖公会保育連盟(以下聖保連)は、全国の日本聖公会に所属する幼稚園・保育園・認定こども園など子どもに関わる施設で構成された団体で、毎年各教区が持ち回りで全国保育者大会を開催しています。しかし新型コロナウイルスの流行があり

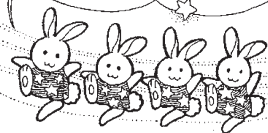
二日目は六つの分科会に分かれての研修。第一分科会の「ひのきや」による「音を遊ぶ」と第二分科会の写真絵本作家の小寺卓矢先生の「写真絵本作りにチャレンジ」が大沼国際セミナーハウスで、第三分科会は鹿部町の「浜のかあさん」たちによる料理体験

が鹿部町の道の駅で、第四分科会、道教大岩見沢校の能條歩先生による「子どもと分かち合う自然保育」は大沼の自然の中で、第五分科会は大沼のカヌー体験、そして第六分科会が「教会めぐりとパイプオルガン」ということで函館の教会をめぐり、聖ヨハネ教会では丸山悦子姉にパイプオルガンを演奏していただきました。多くの信徒さんをはじめ、藤井司祭ご夫妻にも暖かく歓迎していただき感謝です。各分科会も午後から函館市内に移動し自由散策。北海道とは思えないほどの暑さの中ででしたが、みなさんが観光を楽しまれました。

最終日は各分科会の報告と聖餐式。岩見沢聖十字幼稚園のチャプレン池田司祭の説教は「漕ぎいでよ」と心温まるいいお話でした。

幼稚園・保育園・認定こども園の中で、いつも「福音の種」は蒔かれています。わたしたちはそのことを覚えながら、園の活動を応援する教会でありたいといつも願っています。主に感謝。

教会だより August



▽旭川聖マルコ教会

ついに夏本番。窓を開けて、近くの病院に離発着するドクターヘリの音にかき消されながらの礼拝が夏の風物詩になりつつあります。

八日はバザーのお手伝いで、数名が留萌キリスト教会へ。久々の他教会との交流を楽しみました。九日は礼拝後に短い婦人会の集まりを開催。そろそろ通常の例会に戻す話も出ています。二三日は月に一度のマルコ食堂。今月は冷やし中華。婦人会の皆さんに感謝。三〇日は久しぶりのみ言葉の礼拝。なんとか無事に終了しました。週報では毎週道北四教会合同礼拝が案内され、申し込みも順調です。

▽岩見沢聖十字教会

七月は恵みの多い月。聖餐式が三回も行われました。第二主日、主教巡回。第三は池田亨司祭。第五は永谷亮司祭。笹森田鶴主教様の時は愛餐会が行われ楽しい一時でした。永谷司祭の説教では平和の大切さについて語られました。

一〇日、新潟在住の池田司祭のお父様のご逝去されたとの報告を受けました。教会でもお祈りをお捧げしました。

中旬、園の年長のお泊り会。元気に活動していました。下旬、聖保連の全国大会が函館大沼にて開催。先生方は多くの恵みを持ち帰りました。

▽釧路聖ハウロ教会

七月九日の礼拝後は恒例の「教会問答あれこれ」勉強会。この日は「十戒」の後半部分、「人間と人間の関係について」でした。「あなたの父と母を敬え」「偽証してはならない」「貪ってはならない」など、現代でも重要な行動規範が書かれています。た

▽厚岸聖オーガスチン教会 (伝道所)

釧路にも夏がやってきました。暑い日が増えました。

七月九日の礼拝後は恒例の「教会問答あれこれ」勉強会。この日は「十戒」の後半部分、「人間と人間の関係について」でした。「あなたの父と母を敬え」「偽証してはならない」「貪ってはならない」など、現代でも重要な行動規範が書かれています。た

だ意外にも「十戒」は聖書には二箇所しか出て来ないとのこと。言い換えれば二箇所だけなのに、現代の行動規範のベースになっており、深い真理を感じます。

聖霊降臨後第八主日礼拝後、集會室でお茶会。皆さん、実生活でお喋りの機会が減っているせい、山本真智子姉を中心に津田夫妻の近況や足が遠のいてる信徒の方々、更にはご家族のことなど、活発に情報交換。大盛り上がりでした。

途中、吉野司祭から「礼拝堂の階段を考慮して九月からは月初以外、この集會室で礼拝」との提案が。賛成です。

連日三五度前後の猛暑の日々でした。教会月例のスケジュールは、第一主日教会委員会、第二主日「宣教の窓」(礼拝後三〇分程度の勉強会)、第三主日「み言葉の分かち合い」(主日説教を題材とした福音の学び)、第四主日、司祭有珠聖公会出張のため「み言葉の礼拝」となっています。夏季来訪者多く、米国イリノイ州からハーテル真子・プリ

シラちゃん里帰り。河野正司・マリ子ご夫妻(東京教区)避暑を兼ねてご滞在。中川敦夫・信枝ご夫妻(東京教区)聖保連全国大会参加に併せ来会。郡山から小林潤さんのお嬢様とお孫さん来会。函館から橋本論さん、徹子姉の納骨式のためと、多くの来訪者に恵まれ感謝。

七月一三日に聖餐式を行う。前日に礼拝堂に行った司祭はいきなり雨漏りを発見、しかも礼拝堂の真ん中でいたためです。翌日は礼拝堂にバケツを二つ置いて礼拝。

しかしこの日、他教会の信者さんで礼拝のために片道五〇〇キロを一人で運転して出席してくださった方がいて、嬉しくて雨漏りの憂いも吹っ飛びました。礼拝後は四名でいつものいなり寿司で団らんの時をもつ。雨漏りは応急処置で様子を見ることに。建物には問題だらけでも、お恵みの大きさは半端ではありません。最北のエクレスシアのためこれからもお祈りくださ

い。

い。

▽苫小牧聖ルカ教会

いつぱいの「感謝！」教会の庭先に咲き誇る夏の花々に心が癒されるこの頃。礼拝後、いつも汗水流しながら雑草取りや花壇の世話をしてくださる女性たちに感謝！

奏楽奉仕でデビューし間もないお二方。彼女たちのオルガンやオカリナの音色に包まれ、礼拝がより豊かに。感謝！

去る七月八日(土)の幼稚園運動会。お天気が味方し、大勢の参観者が見守る中、〇五歳園児たちはそれぞれの種目を披露。個々の成長した姿に目を熱くする保護者や教職員たち。感動的な一日となった。神様、ありがとう！

函館も連日暑い日が続いています。一、二日はオーブンガーデン。庭のバラが咲き誇る中、ジャズの演奏、お菓子、ドリンク、古着コーナーもあり地域の方々との交流を持つことができました。恒例の遺愛生の教会訪問が始まりました。さらに上平司祭、木村司祭、熊坂司祭と週替わりに司祭が来てくださり信徒一同、

▽函館聖ヨハネ教会

しかしこの日、他教会の信者さんで礼拝のために片道五〇〇キロを一人で運転して出席してくださった方がいて、嬉しくて雨漏りの憂いも吹っ飛びました。礼拝後は四名でいつものいなり寿司で団らんの時をもつ。雨漏りは応急処置で様子を見ることに。建物には問題だらけでも、お恵みの大きさは半端ではありません。最北のエクレスシアのためこれからもお祈りくださ

い。

い。

新鮮な気持ちで礼拝を守るこ

とができました。二七日には
聖公会保育者連盟全国大会の
分科会で約三〇名の方々が来
教され教会の歴史を学び、オ
ルガンの演奏を楽しんで行か
れました。暑い日でしたが大
きく開け放たれた教会の扉か
ら心地よい風が通り抜け、良
いおもてなしになったと思っ
ます。地域の方が環境整備の
お手伝いをしてくださってい
ます。主に感謝。

▽札幌キリスト教会

四日、浅原佳子さんご逝去。
魂の平安をお祈り致します。
八日、永谷司祭歓迎会を兼ね
たオリーブ会主催の親睦会が
三年ぶりに行われ、楽しいひ
と時を過ごしました。また、
五月から始めた教会農園では
早速ほうれん草等が収穫さ
れ、二日の愛餐会カレーに添
えられました。一六日、教会
創立記念日礼拝の愛餐会は、
婦人会のお赤飯とお吸い物で
お祝い。午後にはヴォーカル
アンサンブルグループ「iz
anaai」による「グレース
の会」チャリティーコンサ
ートも開かれ、心豊かな一日と
なりました。

▽札幌聖ミカエル教会

一五日は幼稚園運動会。雨
天の中、小学校体育館に満員
のご家族と子どもたちの成長
した姿を見守る。二二日、カ
ルチャーナイトで教会見学
者一〇〇名近くを得る。夕
の祈りにも三〇名ほどの参
加があり、共に祈りを捧げ
た。二三日、教会堂横の会
館「HIROBA」の用い方を
幼稚園やたくさんのグループ
の意見を集めて協議し、今後
の可能性を探る。二八日は、
恒例のGFSキャンプが有珠
で行われ、たくさんのミカエ
ルキッズが日焼けした笑顔で
戻ってきた。

▽新札幌聖ニコラス教会

主教様司式の二日の主日は
チャントを用いた礼拝の再開
初日となり、喜びにあふれた。
九日は野外礼拝。三浦執事と
ともに長沼町・仲野農園へ。
清々しい天気にも恵まれ、昼
食の後は園内に仲野氏が新設
された「アイヌの里」拝見と
小道の散策にて軽い森林浴に
ひたる。一方、ニコラス礼拝
堂では、信徒奉事者によるみ
言葉の礼拝が五名出席で守ら
れる。

一六日は礼拝後、先月に続

き阿部芳克司祭のご協力を得
て、歌い始めを祈禱書の流れ
に合わせた礼拝チャントの総
練習を行う。第四週の二四日
は協働牧師の松井司祭による
聖餐式。礼拝後には松井司祭
同席にて聖書を読む会が開か
れる。

▽平取聖公会

七月一六日は笹森主教の巡
回がありました。夫君沼原氏
も同行され、バチラー保育園
の職員の出席もあり大勢で礼
拝を捧げることができまし
た。

少し前に記者の住居近くの
水田に珍しく鶴の飛来があ
り、お名前の「田鶴」の映像
を見て頂くことができました。

翌一七日に認定こども園バ

チラー保育園の落成・祝別礼
拝が、遊戯室で、笹森主教の
司式、内海牧師の補式で捧げ
られました。式後の記念会は
柳原主任の司会で進められ、
笹森理事長の挨拶、遠藤町長
の祝辞を頂き、建設三社に感
謝状が贈呈されました。最後
に高橋園長の謝辞があり無事
式典を終えることができました

た。

▽紋別聖マリヤ教会

七月に入りましたが、比較
的涼しい気候の紋別でも、観
測史上初となる六日連続で真
夏日を記録するなど厳しい夏
となつていきます。

二日、越山司祭司式による
聖餐式。九、一六、二三、三〇
日、内竹兄司式によるみ言葉
の礼拝。都合により聖餐式は、
幼稚園ホールで執り行うので
すが、三〇日は暑さが厳しい
ため聖餐式同様、幼稚園ホー
ルで執り行いました。

二一日から二三日、「もん
べつ観光港まつり」が四年ぶ
りに通常開催となりました。

▽有珠聖公会

七月二三日、主教巡回。笹
森主教様を迎えて、聖餐式が
捧げられました。午後には、
アジサイの青い花とサビタの
白い花に囲まれた教会の庭に
てジンギスカンパーティーを
開催、二〇名が参加しました。

夏の暑い日差しの下、木陰を
選んで、思う存分ジンギスカ
ンを楽しみました。能澤さん
からの自家製メロンの差し入
れにも感謝。

伊達市教育委員会の協力に

より、バチラー師が伝道旅行

に携行した幻灯機とガラスス
ライドを用いての映写に向け
て、調査と研究が行われるこ
ととなりました。

▽留萌キリスト教会

暑さが堪える七月。八日
(土) にバザーを開催し、在
庫品を一掃しました。深川、
旭川の教会から協力者が合計
一〇名加わり、大変力づけら
れました。感謝します。

土門明子さんは病院から自
宅に戻られましたが、歩行が
難しくなったため、施設への
入所を考えておられます。

七月三〇日は宣教一二年
の記念日でした。笹森主教の
巡回をいただき、五月に手術
を受けてから初めて礼拝に参
加した小林栄子さんの復帰を
お祝いしました。

▽小樽聖公会

七月二日(日)、聖霊降臨
後第五主日。聖餐式後、七月
の教会委員会。礼拝堂に隣接
する空家の所有者に、責任あ
る管理と早急の撤去を願う要
望書を英文で作成、六月上旬
に届けた。その回答を受けた
ことを報告。今年中に解体す
るため、現在、業者を選定中

とのこと。一同、朗報に安堵する。

九日(日)、聖餐式。この日、約一年ぶりで出席された大友正幸司祭を囲んで、ささやかな茶話会。タイミングよく大友司祭管理牧師時代の信徒も出席。懐かしい再会に会話もはずむ。

▽新冠聖フランシス教会

今年の夏は猛暑続きで、涼しく過ごすにはどうしたら良いのか苦慮しているのではないでしょうか。教会には、扇風機もクーラーもありませんが、内海司祭さまは一番早く教会へお出でになり、玄関の扉を全開し「おはようございます」と、いつも迎えてくださいます。

七月一六日聖霊降臨後第七主日には笹森主教さま巡回日で、お連れ合いの沼原健二さんもお出でくださいました。また、七月最後の主日礼拝には、札幌より熊谷和彦・泰彦兄。施設に入所中の肥田美代子姉も共に聖餐の恵みに与る事ができました。感謝!

▽北見聖ヤコブ教会

台所の清掃・片付け作業を七月四日、椿田さんと相場さ

んがしてくださり、司祭は直江さんと梅澤さんを訪問、お昼は椿田さん手作りのお弁当を三人でいただきました。美味しかったです。ご奉仕感謝します。お疲れさまでした。使徒聖ヤコブ日は二五日なのですが、司祭来会日という事で、一六日にヤコブを記念いたしました。

北見牧師会が教団の教会で久しぶりに対面であったのですが、司牧上の諸問題を分かち合い祈り合う貧しさの一致がとても感動的でした。

▽網走聖ヘテロ教会

すべてが眠る暑さの中で、一人ひとりの歩みが神からの清水を受けて静かに進んでいます。毎月行われている教会委員会、ザカリア会、学び会、ペテロの会、すべて一人ひとりの愛と献身で続けられています。先日の箴言八章の分かち合いでは佐藤さん、和田さん、飯野さん、司祭の四名で存在の深みからの分かち合いが出来ました。二三日、ギデオンの高木さんが来られて、報告と証しの時をお持ちくださり、茶菓のお交わりの中でも恵みをいただきました

た。八月二三日は墓地礼拝です。

▽聖マーガレット教会

教会の花壇全面に、チューリップの色とりどりの花がならびお見事でした。花がすぎて根をひと休みさせてから掘り出し、来年にそなえる。コロナであれなんであれ、なに事もなかつたかのようにソロモンの栄華をこえる華やかさを植物におあたえくださった、あつてある方に感謝。駐車場に隣接する三角の土地購入祝会を七月二三日午後から開催。教会の外にやき台を用意し、ジンギスカンとホルモンとやさいたちを Teppan とアミでシェフ成田氏、シェフ小貫隆氏で調理、二二名大満足。

▽深川聖三一教会

七月二日、委員会で教会の屋根の補修と塗装の相談です。夏になり待ちに待った保育園のプールでの水泳水遊びが始まる。八日、留萌キリスト教会の記念バザーに二名参加す。一二日、保育園の職員会議。一五日、保育園のお泊まり会前の礼拝が教会で行われる。親許を離れて見る夢はどんな冒険旅行の夢? 一六日

婦人会、教区婦人総会への対応について相談、派遣人事を決める。元ドイツ首相アンゲラ・メルケル女史の著『わたしの信仰』を輪読す。二六日(二八日)、聖保連北海道大会に岡本俊秀園長参加す。三〇日、管理牧師下沢昌司祭来訪礼拝。越山健蔵司祭も加わり楽しい昼食となる。

▽今金インマヌエル教会

先日、埼玉県熊谷市から荻野吟子姉の観光ガイドとして活躍されているグループ六人が教会を訪ねて来ました。荻野吟子さんは、近代日本における最初の女性医師として有名です。明治の開拓時代私達の祖先と共にこの地の開拓に励んだ志方之善しかたゆきよしの妻でもありました。当時の食糧、生活の様子、信仰心、子どもたち教育など、短い時間でしたが、深く交わりをもつ事が出来ました。いつの時代になっても大切なのは、強い信仰心が家族を守り生活を守り、教会を守るということ。明治の人たちの根性に触れたひと時でした。

▽室蘭聖マタイ教会

五日、松井司祭と信徒五名

で当教会の財政の分かち合いを行う。収入を得るため駐車場を貸し出す方法もあるが、冬の除雪の事を考えると困難である等、八日に再度集まり話し合いを行う予定で終了する。

九日、松井司祭による礼拝聖餐に与り、その後テモテの手紙一の聖書輪読会を行う。

一五日、藤井司祭の御子息三四郎様御家族、職場の方、八名当教会に二泊三日宿泊。社会人バスケットクラブの試合のため。沢山の献金を頂き感謝です。

二二日、松井司祭による礼拝。田中兄、体調を崩し参加できずにおりましたが、聖餐を受けられ、また信徒で回復を祈ってくださいる事に心より感謝しております。

